

第18期
「京都教師塾」

令和5年12月9日

塾生通信

学びの広場

December

京都教師塾通信

No.5

京都市教育委員会 教員養成支援室

第4回京都市教育学講座 初田 幸隆 学校指導課 参与 「教師に求められる資質・能力とは～自己理解を深め、目標を明らかにする～」



第4回は、初田幸隆学校指導課参与に「教師に求められる資質・能力とは」というテーマで講義をしていただきました。「公教育の使命とは何か」を考えることから始まり、学校の役割やこれからの社会展望、時代の流れとともに変化する子どもたちの姿とこれから必要とされる資質・能力、教員自身の資質・能力を高めるための方策等について、多くの分析データや教育理論を紹介いただくとともに、初田先生がこれまで教師として学校現場で積み重ねてこられた実践事例を交えながらお話しいただきました。

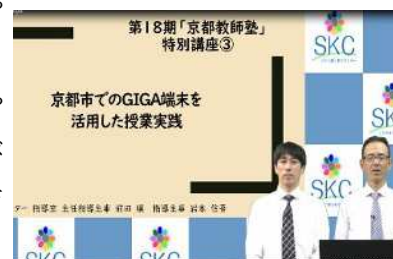
子どもたちがこれからの社会を生き抜くためには、必要となる資質・能力を軸として、学校カリキュラムや「Teaching」の考えを大きく転換する必要があること、「非認知能力」の重要性やそれを高めるための方策、教師として成長する際の省察手法などを示唆いただき、「生涯にわたって学び続ける」ことの重要性を説かれました。グループワークでは、自身と企業の各視点で「不足していると考える資質・能力」を対比し、共通点や相違点等を考えることや、「最大のピンチを乗り越えた経験」を発表し合い、その時にどのような資質・能力を発揮したかを互いに伝え合うなど、資質・能力をテーマに様々な角度から協議を行い、自身の新たな側面を知ることができるなど、とても充実した学びとなりました。



第3回特別講座 講師：総合教育センター 前田 穰 主任指導主事 総合教育センター 岩本 信吾 指導主事 「京都市でのGIGA 端末を活用した授業実践」

第3回は、総合教育センターの前田穰先生・岩本信吾先生に「京都市でのGIGA 端末を活用した授業実践」についてご講義いただきました。現在、児童生徒一人一人にタブレット端末が配備されるなど、GIGA スクール構想の下、学校におけるICT環境の整備が進められています。そのような中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」をキーワードとして、学校での授業はどのように変わるのかをお話しいただきました。「個別最適な学び」では、それぞれの児童生徒が自分に合った学習・映像資料を容易に選択できるようになったことや、「協働的な学び」では、教員のみならず児童生徒同士がより速く効率的に情報をやりとりでき、また、異学年や他校の児童生徒、地域の方、専門家といった様々な人々とのやりとりが可能になることで、学びの形がより協働的になると解説されました。

京都市立学校では、GIGA 端末を活用した新しい教育実践がクラウド上やポータルサイト上でデータ共有されるなど、より主体的・対話的で深い学びを実現するための取組が協働的に推進されています。今後も、児童生徒に育みたい力に応じた学びの形を模索していきましょう。



第4回京都市教育学講座 【講義】

「教師に求められる資質・能力とは～自己理解を深め、目標を明らかにする～」

今回は、子どもたちの取り巻く環境が時代の変遷と共に変化してきたことを確認し、現代の子どもたちの特徴を踏まえた上で求められる教師の資質・能力や、メタ認知能力、自分を振り返ることの大切さについて教えていただいた。その中で、“非認知能力は体験を内面化することで経験になり、経験を振り返ることで学びになり、学びを獲得していくことで育まれる”ということが大きな学びであった。この学びを通して、非認知能力は他者との関わりを通して育まれていくからこそ、たくさんの人と関わる体験や経験をすること、またその体験や経験を振り返り、何を得たのかを考え、学びに変えていくことの重要性を感じた。このことを踏まえ私は、人間味があり、生徒や同僚の先生方と良い関係を築ける教師になれるよう、普段の大学生活や教師塾での学び、またこれからの実地研修を通して、自分が体験したことを振り返り、自分の中に落とし込む学びを積み重ねていきたいと思った。

さらに、教師としての成長に大きく関わる、省察の大切さを教えていただいた。自分の改善点を自分自身で考える省察の大切さに気づき、私は、今まで自分自身を知っているつもりになっていたが、省察をすることで自分の強みや弱点をもっと明確化できるのではないかと思った。そして省察によって明らかになった課題を、「なぜできないのか」ではなく「どうしたらできるようになるか、何から始めるか」という思考に改善していき、課題に対する自分なりの理論を形成していきたいと思った。

このような、自分の成長につながる”省察→「どうしたらできるかを考える」→自論を形成する”というステップは教師として生徒を育む立場になった時にも、生徒の能力や意欲を引き出すために重要なことだと心に留めておきたいと感じた。また、生徒に自信や目標を見失わせてしまうことなく、自己の課題を乗り越えてもらうためには、「なぜできないのか」ではなく「どうしたらできるようになるか、何から始めるか」と前向きに課題を捉えるように教師がサポートしてあげることが必要だと思ったので、まずは、自分自身が課題や弱点を改善しようとするときに、“どうしたらできるようになるか”と考えていく習慣をつけたいと思った。

「教師に求められる資質・能力とは」という事に関して様々な視点からのお話であったと思います。「非認知能力」についての学びから、あなたがイメージする自分の教師像について「人間味があり、生徒や同僚の先生方と良い関係を築ける教師」というように考えられましたね。ぜひ実現してほしいです。また「省察の大切さ」から、「どうしたらできるようになるか、何から始めるか」ということから考えを進めていこうと書かれています。ぜひ実践してください。そして最後の「自分として習慣づけていこう」とすることはとてもいいことだと思います。これらの学びから実践へと繋げていってくださいね。～レポート担当スタッフからのコメント～





フィールドワーク
花背山の家に行ってきました！
<11/18日(土) 61名参加>



京都バスで山の家へ！



入所式・塾生代表挨拶



活動①アイスブレイキング



野外活動において、子ども同士の信頼関係やつながりはとても大切です。実際にゲームに取り組むことで、体験的にそのことを学びました。

活動②野外炊事



活動③ボルダリング・館内ラリー・グループ協議



ここでは、子どもの協力を促す活動の大切さや安全に活動するための適切な見守りや声かけ等について学びました。



野外炊事では、カレーライスを作りました。火起こし、調理、片付けなどにおける役割分担や安全面への配慮など、活動を楽しみつつ、指導者に必要な視点や具体的な指導の在り方について学びました。

退所式・塾生代表挨拶



指導者の視点に立ち、野外活動の魅力と留意点について学びました。

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
『**子どもの教育の革新運動**』を実践しよう！

